

## 日本内分泌病理学会 理事会 議事録

日 時：2009年10月23日（金）16:00～17:00

場 所：甲府富士屋ホテル

（〒400-0073 山梨県甲府市湯村3-2-30、TEL 055-253-811）

出席者：長村義之、覚道健一、成瀬光栄、加藤良平、高野加寿恵、寺本明  
の各理事、吉本勝彦監事、屋代 隆、山田正三 の各オブザーバー

欠席者：佐野壽昭理事長、井上金治、笹野公伸、高見博 の各理事、  
山下裕人監事

議題：

<審議事項>

1. 2008年度決算・監査、2009年度見込み、2010年度予算案の件  
[高野理事、吉本監事]
2. 2011年「内分泌学ウィーク（仮称）」時の会長の件 [成瀬理事（理事長代理）]  
\*「内分泌学ウィーク（仮称）」の準備状況 [屋代評議員]
3. 会則（定款）及び内規改訂の件  
\*名誉会員及び功労評議員の権利について [成瀬理事]
4. 名誉会員推薦の件 [成瀬理事（理事長代理）]
5. 功労評議員推薦の件 [成瀬理事（理事長代理）]
6. 新評議員推薦の件 [成瀬理事（理事長代理）]
7. 研究賞選考委員の件 [加藤会長]

<報告事項>

1. 2010 **Endocrine Pathology Companion Meeting** 開催の件 [覚道理事]
2. 第13回（2009年）学術総会開催にあたって [加藤会長]
3. 第14回（2010年）学術総会の準備状況 [成瀬会長]
4. ICE2010におけるシンポジウムについて [覚道・長村理事]
5. 「褐色細胞腫に関する疫学調査」の経過報告 [成瀬理事]
6. ホームページの現状 [寺本理事]

冒頭、成瀬理事より佐野理事長欠席のため代理を依頼された旨の説明があり、同理事を議長とすることが全会一致で承認された。引き続き、成瀬理事から、出席者は委任状提出を含め9名であり、会則第16条の定足数（理事現在数の2/3＝7名）を満たすことから本理事会は成立するとの報告が行われた後、予定された議題について討議が行われた。

## <審議事項>

### 1. 2008 年度決算・監査、2009 年度見込み、2010 年度予算案の件

・高野財務担当理事より、2008 年度一般会計決算の収入の部においては、会費収入が予算を上回ったが、これは過年度未納分を一部徴収できたため、2008 年度分に限定すると納入率は 58.2%であったこと（納入者数=114 / 会員数=196）、また第 12 回井上会長より学術集会特別会計繰入金として 5 万余円を受領したことが報告された。一方、支出の部においては、前年度未払いの人件費 2 年分を支払ったこと、学術集会への事務局員の出張や役員改選時の選挙開票立会い（=理事長）のため旅費交通費が増加したこと、通信運搬費（会費請求・総会案内・抄録送付・役員選挙案内等の発送費）の予算が過少計上であったこと、ホームページを頻繁に更新したこと等から予算額を上回り、結果として、66,223 円の赤字となったことが報告された。

・第 12 回井上会長欠席のため、高野理事より、同学術集会の決算書が提出されており、会長の努力により上述の余剰金が出たこと、人件費等に対する源泉税が所轄税務署に支払われたことが報告された。

・次いで吉本監事より、一般会計および学術集会の決算書について山下監事とともに持ち回りで監査を行った結果、決算は適正に行われていることを確認したとの監査報告があり、審議の結果、2008 年度決算は承認された。

・引き続き高野理事より、2009 年度見込みの収入の部について会費収入は納入者率を 65%に設定したこと、支出の部では各経費は基本的に 2008 年度決算値を参考に計上したが、国際学会負担金として ICE2010 の JEPS シンポジウム外国人招聘者 2 名分の費用（12 万円）を特別に計上したこと、旅費交通費は事務局員の学術総会時の会議サポートに加え、入会・会費徴収受付も行うことになり 2 名分の出張費を計上したとの説明があり、結果として、約 32 万円の赤字を見込むことが報告された。次いで、2010 年度予算案に関し、収入の部の会費収入は前年同様納入者率 65%と仮定したこと、支出の部では 2009 年度見込みを参考に 2010 年度の事業予定（役員改選有り、国際学会負担金は無し、学術総会開催地は近郊）を考慮して組んだとの説明があり、結果として、約 16 万円の赤字予算となり、次期繰越金は百万円の大台を割り込む見込みであることが報告された。2009 年度見込みおよび 2010 年度予算案に関し審議の結果、それぞれ承認された。

### 2. 2011 年「内分泌学ウィーク（仮称）」時の会長の件

・成瀬理事より、2009 年 4 月 25 日に前橋で開催された理事会において山田正三評議員（虎の門病院）が標記ウィーク時の第 15 回会長候補者に選出され、内諾も得ているとの報告があり、評議員会・総会に推薦することを確認した。

・屋代評議員から、名称は「内分泌学ウィーク 2011」に決定したこと、現時点で日本神経内分泌学会（須田俊宏理事長、加藤幸雄大会長）、日本内分泌病理学会（佐野壽昭理事長、山田正三大会長）、日本比較内分泌学会（筒井和義会長、竹井祥郎大会長）の三学会の参加が正式に決まっていること等、準備状況に関する経過報告が行われ、日時・場所等は以下を予定しているとの説明があった。

日程： 2011年11月23、24、25、26日（水、木、金、土）

場所： 早稲田大学国際会議場（新宿区西早稲田）ないし

明治大学アカデミーコモン棟 2F 会議場（千代田区神田駿河台）

各学会開催日程案： ●は合同シンポジウム開催

	23日（水）	24日（木）	25日（金）	26日（土）
比較内分泌学会	—/○	○/○	●/—	—/—
神経内分泌学会	—/—	—/—	●/○	○/○
内分泌病理学会	—/—	△/○	●/○	—/—

なお、基本合意条件は、①一つの学会に参加登録をすれば全ての学会のプログラムに参加できる。但し、発表者は当該学会に参加登録しなければならない。

②プログラム集作成、抄録集作成、参加登録などはそれぞれ独立に行う。

③総合ポスター、総合プログラム集は統一のものを作成する、となっている。

### 3. 会則（定款）及び内規改訂の件

・成瀬理事より、2009年4月25日の前橋での理事会において審議・承認済みの名誉会員と功労評議員の権利区別に関する下記会則（定款）の一部改訂および関連内規について説明があり、評議員会・総会に諮ることを確認した。

会則（定款）の一部改訂

改訂案（新）	現行（旧）
<p>第7条 名誉会員は本会の目的に関して特に功績のあった者で、理事会で推薦し、評議員会、<u>総会の承認を得て決定する。</u></p> <p>2. 名誉会員は<u>年会費及び学術総会参加費は免除され、他の権利は別途内規に定める。</u></p>	<p>第7条 名誉会員は本会の目的に関して特に功績のあった者で、理事会で推薦し、評議員会の承認を得て決定し、<u>総会に報告する。</u></p> <p>2. 名誉会員は<u>一般会員と同等の資格および権利を有するが会費は免除される。</u></p>
<p>第17条 3. 評議員は満65歳の誕生日を迎えた後の学術集会時の総会の日をもって任期を終了する。</p>	<p>第17条 3. 評議員は満65歳の誕生日を迎えた後の学術集会時の総会の日をもって任期を終了する。</p>

4. 功労評議員は前項により任期を終了した評議員で、本学会活動への貢献の著しい者の中から評議員の推薦に基づき、理事長が理事会に諮り、評議員会、総会の承認を得るものとする。任期は定めず、 <u>年会費は免除され、他の権利は別途内規に定める。</u>	4. 功労評議員は前項により任期を終了した評議員で、本学会活動への貢献の著しい者の中から評議員の推薦に基づき、理事長が理事会に諮り、評議員会、総会の承認を得るものとする。任期は定めず、権利は別途内規に定める。
---	--

関連内規の制定

	名誉会員	功労評議員
年会費	免除	免除
学術総会参加費	免除	要
評議員会	オブザーバーとして出席	オブザーバーとして出席
総 会	オブザーバーとして出席	オブザーバーとして出席
新評議員推薦	可	可
学術総会発表	可	可

#### 4. 名誉会員推薦の件

・成瀬理事より、佐野理事長から小澤安則評議員（第7回会長、理事歴 2002年～2008年）が推薦されているとの報告があり、理事会として承認し評議員会・総会に諮ることとした。

#### 5. 功労評議員推薦の件

・成瀬理事より、佐野理事長から小原孝男評議員（評議員歴 2002年～2009年）が推薦されているとの報告があり、理事会として承認し評議員会・総会に諮ることとした。

#### 6. 新評議員推薦の件

・成瀬理事より、下記5会員から申請があったことが報告され、資格要件に基づいて審議の結果、全員を理事会として承認し評議員会・総会に諮ることとした。但し、銭志栄会員については、日本内分泌学会の会員歴復活を条件とした。西岡 宏（東京医科大学）、臼井 健（京都医療センター）、鈴木幸一（国立感染症研究所）、近藤哲夫（山梨大学）、銭志栄（徳島大学）

#### 7. 研究賞選考委員の件

・加藤会長（選考委員長）より、持ち回り理事会で承認済みの選考委員3名：覚道理事、成瀬理事、吉本監事の報告があり、評議員会・総会に報告することを確認した。また、抄録に基づいて実施された受賞者選考過程（経歴・学会発

表歴を加味)の詳細が公開された。受賞者は下記の通りである。

#### 最優秀賞

氏名： Huhehasi Wu

所属： 国立感染症研究所、山梨大学人体病理

演題： マウス腎臓におけるサイログロブリン遺伝子断片の発現と意義

#### 奨励賞

氏名： 成毛 有紀

所属： 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・感染免疫

演題： 甲状腺濾胞性腫瘍の進展に伴う 53BP1 フォーカスの発現動態とゲノム不安定性

氏名： 阿南 真由美

所属： 佐賀大学医学部医学科病因病態科学臨床病態病理学分野

演題： 脂肪組織は心筋細胞のアポトーシスを促進し、増殖・分化を抑制する

#### <報告事項>

##### 1. 2010 Endocrine Pathology Companion Meeting 開催の件

・覚道理事より、会長を務める標記 Meeting の日程・プログラム等の詳細が下記の通り示され、支援及び参加の要請が行われた。

Saturday, March 20, 2010, Washington DC

#### "NEW INSIGHT IN THE ENCAPSULATED THYROID FOLLICULAR CELL TUMORS"

The topics of the program were chosen by an informal poll of members, a review of the programs from recent meetings, and consultations with current and past office bearers of the society, based upon the recent advances and difficulties in classification in selected thyroid follicular cell tumors. This symposium highlights problematic diagnostic areas in the diagnosis of encapsulated follicular cell tumors, benign and malignant, sporadic and familial. There will be an initial discussion on the significance of capsule of follicular cell tumors, including tumors with an aggressive behavior, from the morphology to the new molecular aspects, familial follicular cell tumors including classification and morphological characteristics to genetic aspects of encapsulated follicular cell tumors. The objective of the program is to update general surgical pathologists to recognize important diagnostic, clinicopathologic, and molecular features in selected and difficult thyroid follicular cell tumors.

Moderators:

Dr. Kennichi Kakudo, Wakayama Medical University, Wakayama City, Japan

Dr. Virginia LiVolsi, University of Pennsylvania, Philadelphia, PA

7:00 PM: "Capsule of Follicular Cell Tumors, its Significance and Morphology" Drs. R. Katoh, Tadao Nakazawa, Tetsuo Kondo, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan

7:30 PM: " Encapsulated Follicular Cell-derived Tumors: Tumors with an Aggressive Behavior" Dr. Ron Ghossein, Memorial Sloan Kettering Hospital, New York, NY

8:00 PM: "Familial Follicular Cell Tumors: Classification and Morphological Characteristics". Dr. Vânia Nosé, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA

8:30 PM: "Genetic Aspects of Encapsulated Follicular Cell Tumors". Dr. Thomas Giordano. University of Michigan, Ann Harbor, MI

## 2. 第13回(2009年)学術総会開催にあたって

- ・加藤会長より、今学会の趣旨・特徴の説明と参加・協力への謝辞があった。

## 3. 第14回(2010年)学術総会の準備状況

- ・成瀬次期会長より、来年の学会は2010年10月29日(金)・30日(土)に京都で開催されるとの紹介があった。また、会場についてはメルパルク京都(JR京都駅前)を予定しているが、まだ流動的である。

## 4. ICE2010におけるシンポジウムについて

- ・覚道理事より、本分科会から提案した ICE2010 会期中に開催される JES-Sponsored Symposium の日時・テーマについて下記の通り紹介があった。

JES-Sponsored Symposium, (14:20-16:00, March 28, 2010, Kyoto, Japan)

Chairs: Kennichi Kakudo, Mitsuhide Naruse

Theme : Molecular Aspects of Endocrine Tumors update

Speaker 1: Shioko Kimura, Endocrinology Section, National Cancer Institute, National Institutes of Health, USA

“Stem cells in thyroid carcinomas.”

Speaker 2: Ryohei Katoh, Department of Pathology, Yamanashi University  
“TTF-1 and its function in thyroid carcinogenesis.”

Speaker 3: Guido Rindi, Department of Pathology, University of Parma,  
Italy

"Heritable Gastroenteropancreatic NET: diagnostic aspects and EU  
classification guidelines".

Speaker 4: Asa, Sylvia, Department of Pathology, University of Toronto,  
Canada

“Pituitary lesions in genetic endocrine tumor syndromes”

尚、上記 JES-Sponsored Symposium における海外からの演者の滞在費に関して、ICE、JES にてカバーできない場合は内分泌病理学会から予算内で支給することが提案、承認された（議題 1、2009 年度見込み支出の部参照）。

・長村理事（ICE2010 プログラム委員）より、ICE2010 会期中の内分泌病理関係のシンポジウムについて下記の通り紹介があった。

#### 9-6 "Pituitary tumorigenesis "

2010 年 3 月 29 日 09:20~11:00

<State-of-the-art>

Sylvia L. Asa (University of Toronto, Canada)

<Speakers>

Margaret E. Wierman (University of Colorado, Denver, USA)

Mônica R. Gadelha (Federal University of Rio de Janeiro, Brazil)

Kinji Inoue (Graduate School of Science and Engineering, Saitama  
University, Japan)

#### 9-3 “Neuroendocrine Tumors”

3 月 28 日 09:20-11:00

<State-of-the-art>

Kjell Öberg (Uppsala University, Sweden)

<Speakers>

Guido Rindi (University of Parma, Italy)

Tetsuhide Ito (Kyushu University, Japan)

Irvin M. Modlin (Yale University School of Medicine, USA)

#### 14-5 “Adrenal Pheochromocytoma”

<State-of-Art>

Graeme Eisenhofer(Germany)

<Speakers>

Anne-Pau Gimenez-Roqueplo(France)

Arthur S. Tischler(USA)

Kazuhiro Takekoshi(Japan)

#### 9-2 “Adrenal tumors:Clinico-pathophysiology”

<State-of-Art>

Gary D. Hammer(USA)

<Speakers>

Jérôme Bertherat(France)

Hironobu Sasano(Japan)

Martin Fassnacht(Germany)

#### 5. 「褐色細胞腫に関する疫学調査」の経過報告

・成瀬理事より、本学会後援でもある標記テーマについて、調査の結果、全体像を把握することができたので、次段階として病理診断が **Key** になるとの見解が示された。

#### 6. ホームページの現状

・寺本広報担当理事より、各項目ともアップデートできているとの報告があった。また、トップページをよりアピールできるデザインに改訂したいとの意向が示され了承された。

以上

#### 事後記載：

決算・予算、会長候補者、会則（定款）改訂、特別会員、その他、評議員会及び総会での審議を必要とする案件は、2009年10月24日（土）の評議員会及び総会においてすべて承認された。

（記録：事務局・岸、理事長代理＝庶務理事及び財務理事の校閲済み）